

【ジョブコーチによる障害者の職場適応支援】 事例③

対象事業所	X工業株式会社	
支援対象者	Cさん 40代男性 療育手帳B判定	
担当業務	社屋内の清掃等	
支援導入の経緯	20年勤めていた飲食業を退職後、地域の就労継続支援B型事業所を利用。職場実習からジョブコーチ支援を導入し、未経験の清掃業務を習得し入社したケース。	
支援導入時の状況 課題点など	<p>【支援対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年間の職歴はあるものの、給与未払いや過度な残業がある事業主であったため、一般企業での就労に不安がある。 ・就労継続支援B型事業所に慣れてしまっているため、就労への意識が減退している可能性がある。また、新たな作業の習得にどのくらいの時間が掛かるかわからない。 	<p>【対象事業所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の方を雇用しているが、知的障害の方の雇用は初めてである。 ・雇用主はX工業だが、実際の作業は業務委託をしているS社が指導する。
課題点の原因として 考えられるもの	<p>【支援対象者】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新たな作業を習得する機会から遠ざかっている。反面記憶力が良いという強みを持っている。 ②保護された環境で過ごすことが長く、社会人として必要な報告・連絡・相談の仕方や職場に相応しい言動が分からない。 ③上記と同様の理由から自身での体調管理の必要性について分からない。 	<p>【対象事業所】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①②どのように指導したり接して良いのか分からない。 ③支援対象者の体調を心配して手を貸してしまいがちになってしまう。
支援の実施	<p>【支援対象者支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①口頭での指示は理解出来ず、また見本の提示があると「やってくれる」という認識になってしまうため、指導者と一緒に作業を行い習得する方法を取る。 ②決められた報告の仕方や挨拶を具体的な場面を通して繰り返し助言した。 ③水分補給に関して支援機関と家族に協力してもらい、自身で準備し、決められた時間に補給出来るよう繰り返し助言した。 	<p>【対象事業所支援】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①②具体的な場面を通して、作業指導の仕方や注意の仕方を助言した。具体的には、指導や注意をする際には支援対象者の名前を読んで注意を向けてから行う。見本を見せると「やってくれる」という認識になってしまうので、同時モデリング（隣りで同じ作業を行う）で指導する…等を助言した。 ③手を貸すのではなく、自身で行うよう伝え続ける。
現在	<ul style="list-style-type: none"> ・担当業務についてはすべて習得し、作業スケジュール通りに遂行している。 ・職場での報告や挨拶についても習得し、忘れることが全くない。 ・支援対象者が気に入った封筒やパンフレットを社内から収集してしまう行動が見られ、その行為の軽減に向けて支援継続中。 	